

# ACTUS

月刊北國  
アクタス

2015

4

No.309

定価 800円

## 大解剖! 北陸新幹線のヒミツ

変貌、金沢駅 東口編

拡大する「駅前」商圈



「モラハラ」離婚、ただ今急増中!?

新連載

「北陸新幹線ぶらり旅日記」  
村瀬いくえ(七尾市出身漫画家)

エリカの美人レシピ

ドリームクイズ 温泉宿泊券が当たる!  
ココロ100歳 脳卒中(上)

東大前期・京大詳報

大学入試

石川・富山 高校別合格者数 第1弾

金大・富大・私立大 推薦結果

# ニッチを 極める

④

いひやくまんさんの姿が浮かび  
上がります。

2月下旬、桂記章(金沢市)の  
工場をのぞくと、ひやくまんさ  
んや北陸新幹線の新型車両「W  
7系」のキーホルダーの増産が

## 1万点の土產物類がズラリ

「ガシャン、ドスン」。ごう音  
とともに、プレス機が真ちゅう  
板を3センチほどのダルマ形に  
くりぬきます。研磨機で縁を丸  
く削つた金属片を純金でメッキ  
し、工業用の紫外線プリンター  
で塗料を吹き付けると、愛らし  
い

耳かきなど、パリエーションも  
豊富にそろえています。創業  
家の3代目である澤田幸宏社長  
(49)は意気込みます。

工場の一角にある見本棚には、  
兼六園や東京タワー、富士山に  
金閣寺など、これまで製作した  
土產物類約1万点がズラリと並  
びます。桂記章は社章や校章、  
ピンバッジ、記念メダルなどの  
金属加工品を幅広く手掛けてお  
り、とりわけ観光地向けキーホ  
ルダーでは国内首位となる約3



北陸新幹線開業に合わせて、増産が進められ  
ている「ひやくまんさん」(左)と「W7系」グッズ

## 観光地向けキーホルダーの国内シェア1位

桂記章(金沢市)

## 国や自治体からの注文も

# 新幹線グッズや小判で市場開拓 一貫生産で記章業界を独走

関東を中心に、全国に300  
社以上あるとされる記章メーカー  
のなかで、桂記章は30年余り  
の間トップを走ってきました。  
その原動力は、全国でも同社だけ  
という一貫生産にあります。

バッジやキーホルダーの製造  
工程は多岐にわたります。デザ  
インを描き、それをもとに金型  
を作成します。プレス機や  
研磨機で本体となる部品を作り、  
金型



桂記章では工業用粘土を彫(ほ)って金型の原盤を作っています



これまで手掛けた全国各地の土産物類が並べられた見本棚=金沢市二ツ寺町の桂記章本社



研磨やメッキ、仕上げ加工など、キーホルダー類の製造はさまざまな工程を必要とします



プレス機で1枚ずつ金属片を打ち抜く従業員

桂記章は社内ですべての作業を手掛けてコストを抑えることで多くの顧客の信頼を得ています。一貫生産の良さはほかにもあります。多様な注文や急な仕様の変更にも柔軟に対応でき、情報が外部に漏れにくいことから、国や自治体からの注文も目立ちます。「何より、自分のアイデアが完成品になる過程を見ることができ、従業員の意識高揚につながります」と澤田社長は強調します。

## 「手仕事の良さ」を追求

桂記章は年間約4000

種、240万個余りの商品を製作しています。「10個単位の注文も基本的に断らない」(澤田社長)という営業方針もあり、1000個未満の小ロット生産が受注の大半を占めます。意

匠や工程が異なるため、生産ラインの自動化は難しい側面があります。日ごとに生産品目が変わる製造現場を支えるのは、従業員の手作業にほかなりません。

工場では素材の型抜きや模様の打刻、研磨など、従業員が工作機械を使って一つ一つ手掛けます。仕上げ加工を施す作業場では女性従業員が専用工具と布を使い、製品を手にとつて丁寧に磨き上げていました。

「企業として、最先端の機器を導入して省力化を図ることは欠かせませんが、手仕事ならではの良さもある。手間を惜しまず、品質を追求する姿勢こそ、当社のセールスポイントです」

澤田社長の言葉通り、桂記章の工場では昔ながらの光景が今も見られます。

例えば金型を作る際には、その原盤を粘土彫刻で成形しています。多くの記章メーカーはコンピューターで製作した3Dデータから金型を作っていますが、「人の手で掘ることで、味わい

深い線や造形が表現できる」と澤田社長は指摘します。

桂記章の工場には金属を型押しするフリクションプレス機や素材を融解して固める鋳造機など、40年以上前から稼働する工作機械が少なくありません。これらの古い機械を使うと、時間は掛かりますが、作り手の思いが商品に伝わり、ぬくもりのある仕上がりになるそうです。

桂記章の製造部門には約30人の従業員がいます。「それぞれ専門分野が異なる職人であり、技術を競わせるようにして数セントチの商品を作り上げます。切磋琢磨しながらお互いを高め合う社風こそ、当社の宝です」。澤田社長は言い切ります。

## レジャーブームで業績拡大

桂記章は1948(昭和23)年、澤田社長の祖父である澤田岱里氏が金沢市北安江に創業した澤田記章製作所が前身になっています。旋盤工だった岱里氏は自らデザインしたバッジなどのサ

ンプルを携え、バイクで石川県内を営業して回りました。

校章や社章を主に手掛けている岱里氏のもとに、長野県の觀光物産会社の経営者から思わず依頼が舞い込んだのは61年のことです。「妙高高原の登山記念バッジを作れないか」。若者を中心にはハイキング人気が高まっており、その経営者は目新しい観光土産を求めていました。

当時、金属加工品の土産物は珍しく、岱里氏がデザインしたバッジは飛ぶように売れたといいます。「工芸品ではない日本初の観光記念グッズ」(澤田社長)とされるこの商品をきっかけに、北海道から九州まで、全国の観光地から注文を受けるようになります。

難局を乗り越えるため、桂記章は従来の受注型の営業体制を改め、新商品の開発による市場開拓に取り組んでいます。

そんな時、澤田社長は何気なく模造小判を25枚重ねて半紙で巻いてみました。すると、見ていた人が「時代劇の袖の下みたい」と笑い始めました。営業先で名刺とともに「これでよしなに」と小判を差し出すと、会話のきっかけが生まれ、商談が成立するケースが多くなったそうです。

レジャーブームの後押しを受けて業績は拡大し、66年、法人化に合わせて、メダルなどのデザインに使われることの多い月桂樹から1文字を取って「桂記章」に社名を変更しました。72年には、創業の地である金沢市

北安江から同市一ツ寺町に本社を移転しました。

## 新商品開発に活路

風向きが変わり始めたのは年号が平成に変わった頃です。

製造コストの安い中国の工場にシェアを奪われ、旅行スタイルの変化に伴う土産物類の需要の低下が追い打ちを掛けました。価格競争が激化し、同業者は続々と廃業していきました。桂記章もピーク時に全体の6割を占めた観光関連商品の売上高は年々減少し、現在は4分の1程度となっています。



新商品のアイデアを出し合う「arieen娘」のメンバー

その経験をもとに、縁起物と

## なるほどトップ語録

### 工業でなく工芸の氣概で

大量生産を旨とする工業製品に対し、工芸品は美しさや緻密さを重視します。桂記章は昔ながらの手仕事にこだわることで高品質を実現し、業績を拡大してきました。「手間を惜しまず、仕上がりに妥協しない点では金工業も立派な工芸だと考えています。従業員には自らの技術に誇りを持って取り組んでほしいと伝えています」。澤田社長は工芸家としての自負を訴えています。



澤田幸宏  
社長

●さわだ・ゆきひろ

金沢市出身。金沢西高卒業後、1984年桂記章入社。常務を経て2013年10月から現職。49歳。

### 桂記章

本社／金沢市二ツ寺町ハ30—14  
設立／1948(昭和23)年  
資本金／4200万円  
従業員数／50人  
年商／7億円(2014年度)

恐れて萎縮していくはじり貧になるだけです。自由な発想力こそ、この逆境を乗り越える鍵になります」(澤田社長)

「社員には面白いと思つたら、販路を考える前にまず試作品を作つてみろと伝えています。失敗を

現在は刀のつばを模したベルトのバックルなど、輸出向け商品の製作にも取り組んでいます。「今度はこちらから海外に攻め込む番です。まねのできない商品を作つて、技術力の高さを見せつけてやりますよ」。澤田社長は社業の飛躍に向け、次なる一手を練つているようです。



小判や刀のつばを模したベルトのバックルなどが人気を集めています

女性ならではの感性を商品づくりに取り入れる狙いから、営業や製造、経理などの各課に所属する女性社員6人でつくる商品企画チームを11年に発足しました。「小さいことをコツコツ積み上げよう」との思いから「あ

ト」など、ラインナップも広がっています。

して小判を売り出すと、ひと月に「2万両」売れる人気商品になりました。

枚を詰めた「千両箱」は80万円という価格にもかかわらず、「モ

ームのアイデアからひやくまんさんやW7系グッズが誕生しました。自社オリジナルのキャラクター「姫だるま」グッズが注目を集めています。

りん娘」と名付けられたこの子

桂記章の応接室には金箔を貼った湯たんぽが飾られています。遊び心で作った商品でしたが、還暦祝いの記念品として評判になり、これまでに10個近く売れています。

### 発想力で逆境乗り越え

金工技術の高さを見込まれ、3年ほど前から漆器や蒔絵といった伝統工芸とのコラボ商品の企画が商社などから舞い込むようになり、手掛けた賞牌は全国の展示会で高く評価されています。

外国人旅行客は、桂記章が作った「メード・イン・ジャパン」の土産物を率先して購入するとれます。泽田社長は、當時社長は社業の飛躍に向け、次なる一手を練つているようです。

現在は刀のつばを模したベルトのバックルなど、輸出向け商品の製作にも取り組んでいます。「今度はこちらから海外に攻め込む番です。まねのできない商品を作つて、技術力の高さを見せつけてやりますよ」。澤田社長は社業の飛躍に向け、次なる一手を練つているようです。